

市営南畑敷住宅 38・39号解体工事

令和 6 年 2 月

株式会社原井隆建築設計事務所

訂正			TAKASHI HARAI ARCHITECTS 株式会社原井隆建築設計事務所  一級建築士事務所 広島県知事登録 第5582号 一級建築士 登録 第320892号 原井 隆	校 図	製 図	工事名称  市営南畑敷住宅 38・39号解体工事	図面名称  表紙	図面番号  A-00
					縮尺  N.S.			区分  

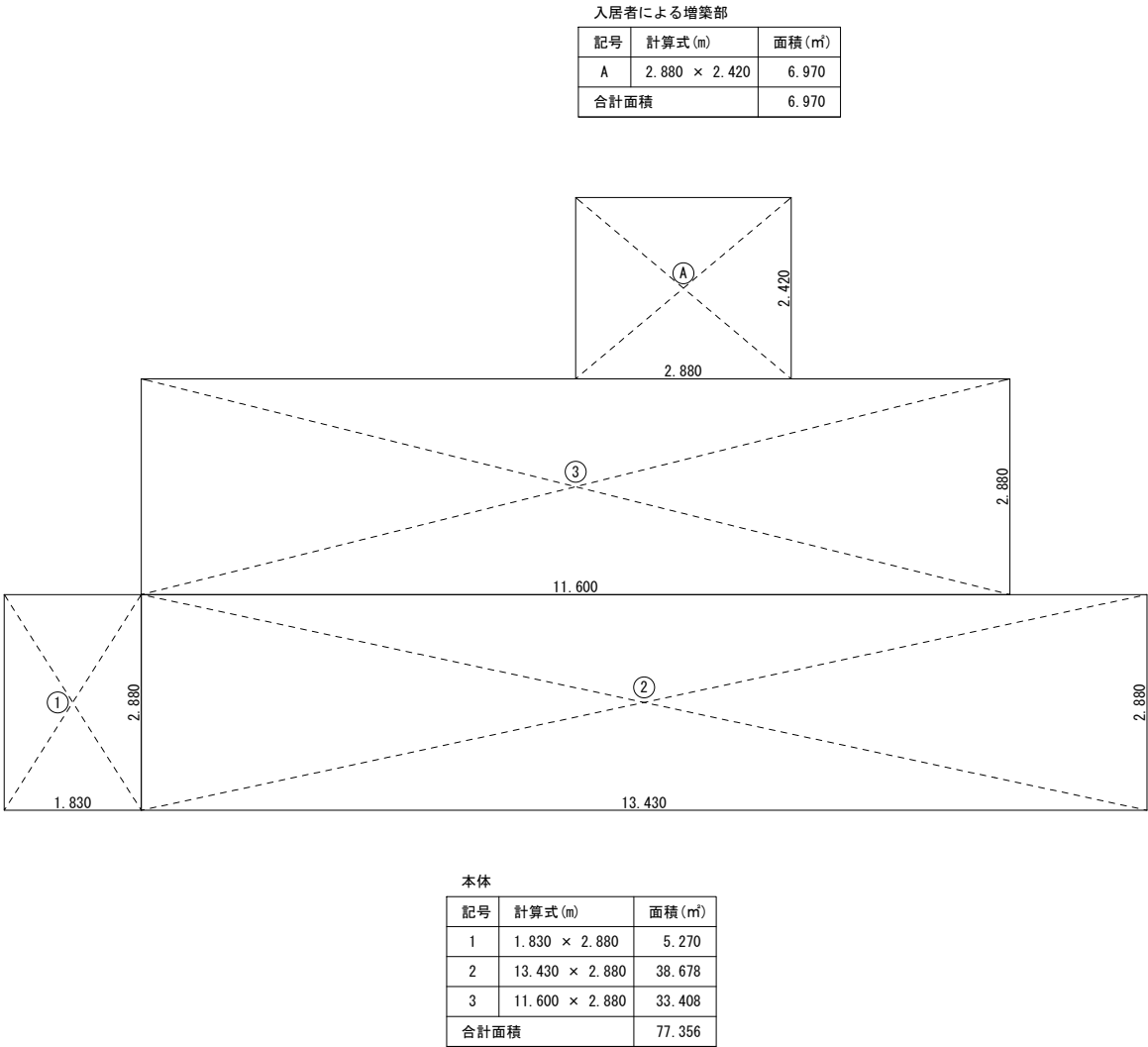
工事概要			I 一般 共通 事項	項目		特記事項										
1	工事名称	市営南畑敷住宅38・39号解体工事		⑧	工事工程表 (1.2.1) 施工計画書 (1.2.2)	(3)本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので、適正に処理すること。 なお、本工事では、広島県産業廃棄物埋立税相当額を見込んでいる。  検査期間としての14日間を含んだ工程とし、工事全体を把握して作成し、監督職員の承諾を受ける。  建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、建設副産物適正処理実施要領に基づき事前調査のうえ、事故防止及び環境保全に十分配慮した解体工法並びに建設廃棄物の処理等について具体的に定めた施工計画書を作成し、あらかじめ監督職員に提出し承諾を得ること。 (仮設計画、安全・環境対策、工程計画、解体計画、発生材の処分計画)										
2	工事場所	三次市南畑敷町160番地1														
3	構造・規模	木造平屋建 延べ面積：77.36㎡（本体）、6.97㎡（入居者による増築部分）														
4	工事種目	(1)建物解体・撤去工事一式（内訳は別図による）														
5	別途工事															
6	公衆災害防止措置	ア 工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危害、並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること。 イ 上記について、「建設工事公衆災害防止要綱（平成5年1月12日付 建設事務次官通達）」に基づき実施すること。														
7	現状復旧	工事に際し、隣接建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと。														
8	その他	(1)この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は、原則として広島県内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする。 (2)解体仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能・工法検査方法等を明示している場合において、それらが、関係法令等（条例含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）を優先する。 (3)本工事の場合には工事中下記に示す調査を行うため、営繕課より連絡があれば対応すること。 ・公共事業労務費調査……工事中に実施（調査票等の記入提出、発注者の調査実施への協力等）														
II 解体工事仕様				II 仮設 工事	項目		特記事項									
1	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説」（最新版）（「解体仕様書」という。）による。	①2	工事の記録 (1.2.3)		①つり足場（ゴンドラのつり足場を除く）、張出し足場又は高さ5m以上の構造の足場の組立て、解体を行う場合、コンクリート造又は鉄骨造の工作物（その高さが5m以上のもの）の解体作業を行う場合は、労働安全衛生法第14条に基づく技能講習を終了したものとする。 ②木造建築物の解体作業を行う場合は、平成3年1月21日付け基発第39号「安全衛生教育の推進について」及び平成元年9月5日付け基発第485号「木造建築物の解体工事の作業指揮者に対する安全教育について」に基づく安全教育を終了した者とする。  下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の作成は「営繕工事写真作成要領」によるものとする。 (1)工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする。 (2)工事中写真 全般的な解体工事の状況、建設副産物処理及び事前措置、解体手順の各段階における施工が完了した写真、水中又は地下に埋設される部分、分別解体を行っていることが確認できる状況写真、その他工事終了後では確認できない事項、その他監督職員が指示する箇所は、A4版写真台紙にまとめて完成検査日までに提出するものとする。 なお、基礎や地下構造物等の撤去については、撤去物の全般に亘り、その位置・深さが明確に分かり撤去前と撤去後の状況が確認できる写真とすること。 【提出部数】：1部 (3)完成写真 着工前及び完了時の状況を同一方向から撮影したものを提出すること。 (撮影箇所) 監督職員が指示する箇所 (写真規格) ・カラーサービス版 ・カラーキャビネ版 ・ (規格・提出部数) ・A4版クリアファイル 部 ・A4版写真台紙 部 ・アルバム 部 (4)その他の写真 隣接建物等に損傷の恐れがある場合は、施工前、施工後の写真を監督職員の指示により提出すること。 (5)保管 工事写真のネガは工事完成後、受注者において2年間保管すること。 工事用電力設備の保安責任者として関係法令等に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する ・電気保安技術者 ＊適用しない ・適用する	②0	かし担保調査	竣工後、発注者からかし担保調査（建設工事請負契約約款第41条に定める期間内）の連絡があった場合には、調査に協力すること。								
2	特記仕様							①	騒音・粉塵等の対策 （仮囲い等の安全施設） (2.2.1)	・解体工事着手前に建物周囲に次の騒音・粉塵等の対策を行う。 (・防音パネル ＊防音シート ・メッシュ金網、養生シート ) ・防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲及び高さ等 (＊建物全周囲に建物高さ以上 ・ ・図示 ) 枠組み足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月24日基発第0424001号）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の2の(2)又は(3)の方式により行うこと。 また、上記足場の設置や点検等については、労働安全衛生規則を遵守して実施すること。 ・騒音・振動計を設置すること。（設置箇所は図示による）						
(1)項目は番号に○印のついたものを適用する。(3)項目欄に記載の( )内番号は共通仕様書の当該項目を示す											②	工事用水	原則、既設給水管設備は利用できない。ただし、利用可能な場合は、水道料金及び使用水量に応じポンプ運転に要した電力使用量は、受注者の負担とする。			
(2)特記事項は○印のついたものを適用する。 ○印のつかない場合は＊印のついたものを適用する。 ○印と＊印がついた場合は○印のついたものを適用する。 ○印と㊦印がついた場合は、共に適用する。													③	監督職員事務所(2.3.1)	＊設けない ・設ける( m程度) 備品類等は監督職員の指示を受けて設置すること。	
															4	交通誘導員
		III 解体 施工	①		事前措置 (3.2.1)	(1)給水管、ガス管、電気ケーブル、下水道等の供給管等の切断及び併、配管等の撤去は本工事に含む。 ① 配管等の切断及び汚水管、排水管等の末端処理については、供給者と事前に協議すること。 ② 水道、ガス、下水等の切断位置等は木杭等で明示する。また、記録を残し監督職員に提出する。 ③ 配管等の切断位置や、切り回し必要箇所等は図示による。 (2)落下するおそれのある付属物は撤去すること。 (3)解体に際して周辺環境に害虫等による影響が予想される場合は駆除等を行う。 (4)電気設備のコンデンサ等は残留電荷の確認を行い、必要に応じて放電する。 (5)衛生器具等は、十分に洗浄を行い、汚水、汚物等による異臭の発生を防止する。 (6)浄化槽、排水槽等の解体に係る汚水及び汚物等の残留物は、施設管理者が回収、洗浄等を行うため、時期等について協議すること										
						②	杭、基礎等 (3.9.1～3.9.2)	(1)基礎の解体撤去は、騒音・振動等に配慮して分別解体し、砂利地業・割り石まで行なうこと。 (2)杭の解体 ・残置させる ＊解体する(・引き抜き工法 ・破砕工法 ・ ) ① 杭を残置する場合は、杭の種別・杭径、杭の位置、杭頂部高さ、深さ等の記録を整備し、写真と共に監督職員に提出する。 ② 残置杭の中、杭の破砕跡は、現場発生の良質土で埋め戻すこと。 ③ 残置する杭頭は、キャップ等で被いコンクリートを打設すること。								
								③	解体順序 (3.3.1)	解体仕様書解体手順における(1)解体設備は図示又はリストによる。						
										④	構内舗装等 (3.11.1)	(1)アスファルトコンクリート及びコンクリート等の解体は本工事とし、分別解体する。 (2)樹木等の伐採伐根及び移植 ＊有り(図示による) ・無し				
		⑤	地下埋設物 (3.12.1)	撤去する地下埋設物 ・浄化槽 ①排水枡 ・ハンドホール ・オイルタンク ・埋設廃棄物 ②(便槽) 上記以外で設計図書に記載されていない地下埋設物の存在を確認した場合は、監督職員に報告し、対応策を協議すること												

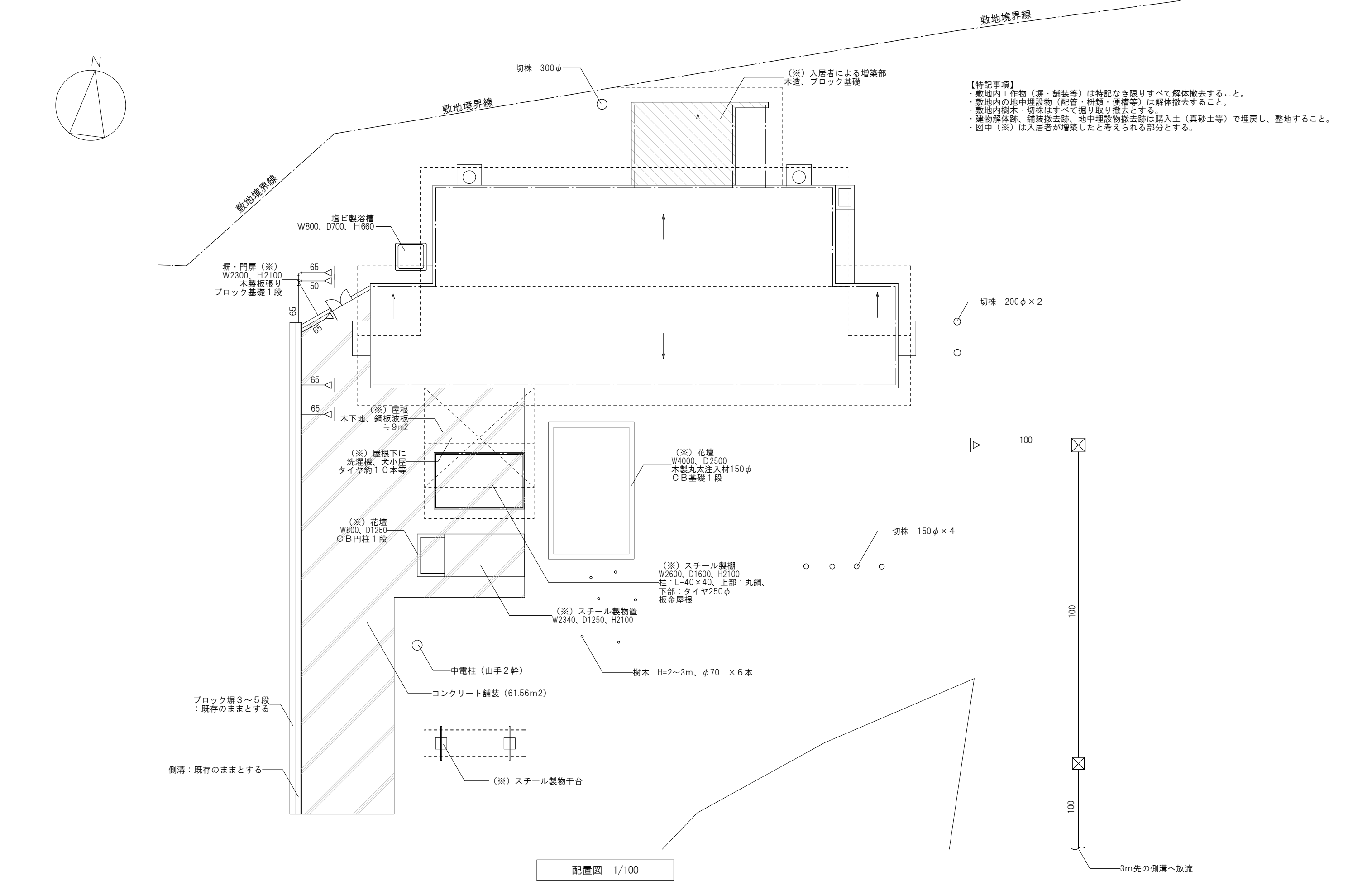
Ⅲ 解 体 施 工	⑥	埋設配管（3. 12. 1）	○撤去・存置 設計図書に記載されていない地下埋設物の存在を確認した場合は、監督職員に報告し、対応策を協議すること。 (1) 解体撤去後の跡地は整地（整地厚10cm程度）すること。（なお盛土する場合は図示による） ○持ち込み土（山砂の類）・現場発生の良質土・他現場の現場発生良質土・再生コンクリート砂・リサイクルプラントが販売する処理土 (2) 土砂流出の恐れのある部分は、土のう等で処置すること。 ・設置する○設置しない・工事中の仮囲いを存置 囲障を設置する場合の仕様等 種別・木杭+ロープ・木杭+番線張り・（ ） 高さH＝（ ） 設置範囲※図示・敷地境界全域 *場外指示の場所に処分・場外搬出適切処理・場外指示の場所に敷き均し ・場内指示の場所に堆積 ・当該工事により発生する建設発生土は、次の公の関与する埋立地に搬出するものとする。 搬出場所：_____の公の関与する埋立地 *当該工事により発生する建設発生土は、「建設発生土処分先一覧表」に掲載されている施設のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入れ地（一時的に積を含む）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用は変更しない。 なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の仕様に拠り難い場合は、監督職員と協議するものとする。	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	2	石綿粉じん濃度測定（6. 1. 4） <9. 1. 1>	* 石綿粉じん濃度測定を行い、記録し監督職員に報告する。 測定方法は、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）最新版による。 測定点の取り方 (1) 処理作業前 ・処理作業室内（点） ・施工区画周辺又は敷地境界（点） (2) 処理作業中 ・処理作業室内（点） *セキュリティゾーン入口（点）…空気の流れを確認 * 負圧・除じん装置の排出口（点）…除じん装置の性能確認 ・施工区画周辺又は敷地境界（点） (3) 処理作業後（離隔シート撤去前） * 処理作業室内（点） ・施工区画周辺又は敷地境界（点）	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	5	石綿含有保温材等の除去（6. 4. 1～6. 4. 5） <9. 1. 4>	②石綿を廃棄物として排出した時は、その都度、排出量と処理先を監督職員に報告するとともに、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写しを添付した廃棄物処理報告書を提出する。 (4) 確認及び後片付け（6.3.4） ①除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床等の清掃を行う。 ②監督職員の立会いのうえで、除去及び封じ込め等が十分行われたかを、目視により確認する。 ③養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全面に粉じん飛散抑制剤を散布する。 ④壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、負圧除じん装置を十分に吸引・ろ過した時点又は粉じん飛散抑制剤吹付け後、沈降した時点で行う。なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。 ⑤養生を行っていない足場、仮設材を清掃した後に解体搬出する。 ⑥床養生用プラスチックシートは、粉じん付着面を内側にして折りたたみ、プラスチック袋に入れる。 ⑦養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、4（1）⑥により処理等を行う。 ⑧後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃をする。						
		建設発生土	③			除去工事共通事項（6. 2. 1～6. 2. 8） <9. 1. 2>				(1) 養生等（6.4.2） ①石綿含有保温材等の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて囲う。 ②作業場の隔離（・行う・行わない） ※石綿含有保温材等の除去にあたり、掻き落とし・破碎・切断による方法の場合は、作業場の隔離を行うこと。 ※作業場の隔離を行う場合は、4「石綿含有吹き付け材の除去」を適用する。 (2) 除去工法（6.4.3） *粉じん飛散抑制剤により湿潤化した後に手ばらし・石綿含有吹き付け材の除去による除去物の処理（*密封処理（二重袋梱包）・セメント固化） (3) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等（6.4.4） 4「石綿含有吹き付け材の除去」(3)除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。 (4) 確認及び後片付け（6.4.5） 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床等を清掃し、監督職員立会いのうえで、除去が十分行われていることを目視により確認する。							
		⑧	解体後の囲障（3. 13. 1）									(1) 養生等（6.5.1） 石綿含有成形板の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて囲う。 (2) 除去工法（6.5.3） ①原則、散水等により湿潤化した後に手ばらしで行い、やむを得ず破壊しなければならない場合は十分に湿潤化した状態で作業を行う。 ②除去した石綿含有成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より落下しないこと他、粉じんの飛散防止に努める。 ③破碎された石綿含有成形板は、湿潤化のうえ、丈夫なプラスチック袋に入れる等飛散防止の措置を講ずる。 (3) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等（6.5.3） ①処分は原型のままとし、処分先は監督職員の指示による。 ・石綿含有石こうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 ・埋立処分(安定型最終処分場)・中間処理(溶融施設) なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。 ②除去した石綿含有成形板を現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の廃棄物と分別して保管するものとし、シートで覆う等飛散防止措置を講ずる。また、保管場所には、石綿等の保管場所であることの表示を行う。 ③石綿含有成形板の運搬に当たっては、運搬車輛の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。					
		⑨	建設発生土									(4) 確認及び後片付け（6.5.5） 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床等を清掃し、監督職員立会いのうえで、除去が十分行われていることを目視により確認する。					
Ⅳ 特別管理産業廃棄物等の処理等	①	施工計画調査（5. 1. 2）	(1) 特別管理産業廃棄物等とは、特別管理産業廃棄物及び特殊な建設副産物をいい、その種類は次による。これらについて、設計図書及び目視により、施工調査を実施し調査結果を調書に取りまとめ、監督職員に提出する。 特別管理産業廃棄物○廃石綿等・PCBを含む機器類・PCB含有シーリング材・廃油・廃酸、廃アルカリ 特殊な建設副産物・フロン、ハロン等の特定物質・放射性物質・六ふっ化硫黄（SF6）・特定化学物質等 (2) 発注者による調査（発注者調査）で判明している特別管理産業廃棄物等は次のとおりであり、適切に処理すること。また、下記については施工調査結果と共に調査結果（調書）に反映させること ・特別管理産業廃棄物①廃石綿等（*無○有（左官材（内部仕上塗材））） ②PCBを含む機器類（・無・有（※施工者による調査必要）） ③PCB含有シーリング（・無・有（※施工者による調査必要）） ④廃油（*無・有（熱源の残油（オイルタンク及び配管内含む）） ⑤廃酸、廃アルカリ（*無・有（ ）） ・特殊な建設副産物①フロン等の特定物質（*無・有（・パッケージ型空調調機の冷媒・ルームエアコンディショナーの冷媒）） ②放射性物質（*無・有（ ）） ③六ふっ化硫黄（SF6）（*無・有（ ）） ④特定化学物質等（*無・有（ ））	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	4	石綿含有吹付け材の除去（6. 3. 1～6. 3. 4） <9. 1. 3>	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	7	石綿含有仕上塗材等(下地調整塗材も含む)の除去	(1) 養生等 石綿仕上塗材等（下地調整塗材も含む）の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて囲う。 (2) 除去工法（施工場所：※図示・ ） 「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」に記載の粉じん飛散防止に関し隔離措置と同等の措置と判断できる工法により行う。 (3) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 保管、運搬については、4「石綿含有吹き付け材の除去」(3)除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。処分先については、監督職員の指示による。 ・埋立処分（・安定型最終処分場・管理型最終処分場）・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。 (4) 確認及び後片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床等を清掃し、監督職員立会いのうえで、除去が十分行われていることを目視により確認する。							
		特別管理産業廃棄物の処分等（5. 4. 1）	処分等の必要な特別管理産業廃棄物は、関係法令に従い適切に処分すること。又、施工調査によって、判明した箇所も、処分方法等を監督職員と協議し、同様に処分すること。														
		廃石綿等（5. 4. 1）	廃石綿等の処理は、6章「石綿含有建材の除去及び処理」による。														
		PCB含有機器類（5. 4. 1）	事前調査対象機器は次による。 ・ ・														
Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	①	PCB含有シーリング材（5. 4. 1）	PCB含有シーリング材の分析調査及び撤去は次による。 ・分析調査箇所数（計箇所）分析調査箇所*図示 ・撤去範囲は、次のとおりとし、PCB含有シーリング材はPCBが飛散しないように適当な容器に納め、適切な場所に保管し、調書を作成の上、合わせて監督職員に引渡すこと。 （図示による）	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	4	石綿含有吹付け材の除去（6. 3. 1～6. 3. 4） <9. 1. 3>	Ⅴ 石綿含有建材の除去及び処理	7	石綿含有仕上塗材等(下地調整塗材も含む)の除去	(1) 養生等 石綿仕上塗材等（下地調整塗材も含む）の除去に伴い、石綿の作業場から外部への飛散防止のため、養生シート等を用いて囲う。 (2) 除去工法（施工場所：※図示・ ） 「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」に記載の粉じん飛散防止に関し隔離措置と同等の措置と判断できる工法により行う。 (3) 除去した石綿等の保管、運搬、処分等 保管、運搬については、4「石綿含有吹き付け材の除去」(3)除去した石綿等の保管、運搬、処分等による。処分先については、監督職員の指示による。 ・埋立処分（・安定型最終処分場・管理型最終処分場）・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設） なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。 (4) 確認及び後片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床等を清掃し、監督職員立会いのうえで、除去が十分行われていることを目視により確認する。							
		ダイオキシン類（5. 4. 1）	廃棄物焼却施設等の解体方法の指定 解体作業 ・第1管理区域（レベル1）・第2管理区域（レベル2）・第3管理区域（レベル3）・（ ） 廃棄物焼却炉からの排出物の処分 <table><tr><th>品目</th><th>最終処分上等の名称</th><th>所在地（距離）</th></tr><tr><td>・もえがら</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ばいじん</td><td></td><td></td></tr></table>			品目			最終処分上等の名称		所在地（距離）	・もえがら			・ばいじん		
		品目	最終処分上等の名称			所在地（距離）											
		・もえがら															
・ばいじん																	
特殊な建設副産物の回収及び処分（7. 3. 1）	回収及び処分の必要な特殊な建設副産物は、関係法令に従い適切に回収・処分すること。又、施工調査によって判明した箇所も、処分方法等を監督職員と協議し、同様に処分すること。																
①	施工調査（6. 1. 3） <9. 1. 1>	目視及び設計図書等により、あらかじめ事前に次の事項について施工調査を行い、調査結果をとりまとめて監督職員に提出する。 (1) 使用部位の確認 (2) 種別、厚さ等の確認 (3) 使用数量の確認 (4) 施工範囲と工事管理区分の確認 ・石綿含有分析調査（*不要○必要（内容は下記による）） 分析方法*JIS A1481-1「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による定性分析 分析必要部屋名等（ ）分析必要箇所（ ）箇所															

訂正			TAKASHI HARAI ARCHITECTS 株式会社原井隆建築設計事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第5582号 一級建築士 登録 第320892号 原井 隆	検 図	製 図	工事名称 市営南畑敷住宅 38・39号解体工事	図面名称 建築解体工事特記仕様書(2)	図面番号
								A-02
							縮尺 N.S.	区分

面積表

附近見取図





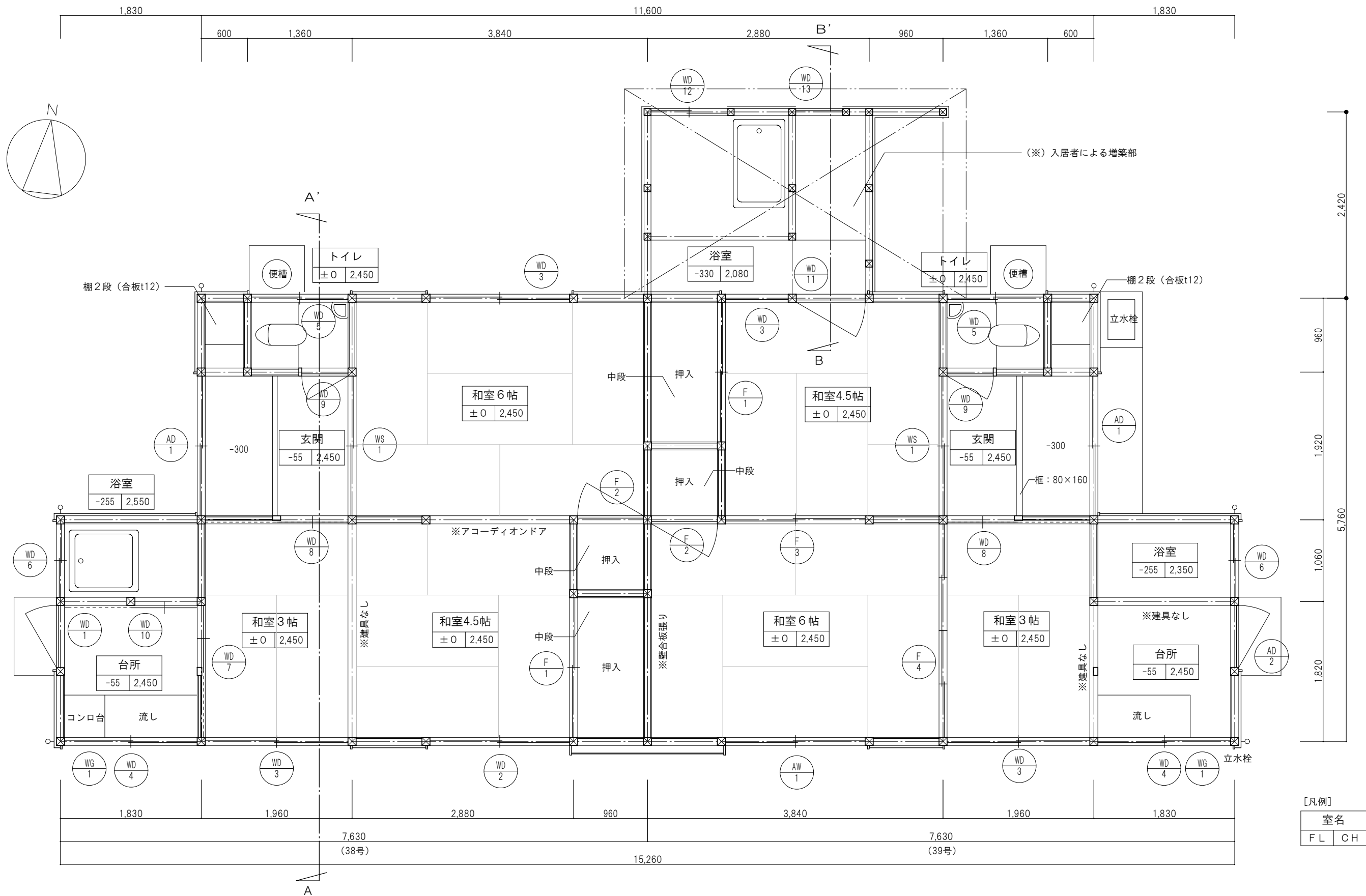
訂正		TAKASHI HARAI ARCHITECTS 株式会社原井隆建築設計事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 23(1)第5582号 一級建築士 登録 第320892号 原井 隆	校 図	製 図	工事名称 市営南畑敷住宅 38・39号解体工事	図面名称 配置図	図面番号
				A-04			
				縮尺 A3判：1／100			区分

外部仕上表 (本体)	屋根	セメント瓦葺き
	軒天	野地板現し
	外壁	板張り、上部漆喰塗り、下部一部モルタル塗り
	巾木	モルタル塗り
	庇	カラー鋼板
	構造規模	木造平屋建（コンクリート布基礎）
（入居者による増築部） 外部仕上表	屋根	亜鉛メッキ鋼板波板葺き
	外壁	亜鉛メッキ鋼板波板張り
	構造規模	木造平屋建（コンクリートブロック基礎）

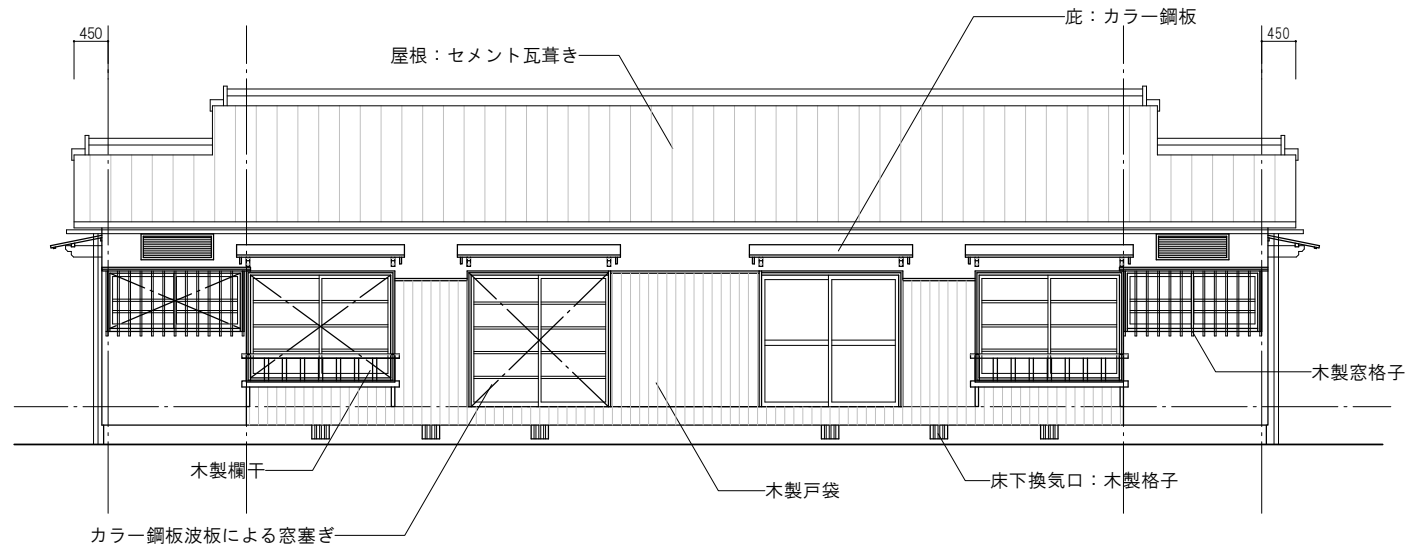
建具記号	数量	形式	W×H	備考	建具記号	数量	形式	W×H	備考
WD－1	1	木製額入り開き戸（フラッシュ）	800×1820	上部木製ガラスランマ260H ガラス400×600	WD－1 1	1	木製片開き戸（フラッシュ）	810×1730	入居者による増築部
WD－2	1	木製引違い戸（ガラス、格子）	1815×1730	木製雨戸	WD－1 2	1	木製引違い戸（ガラス）	1100×800	入居者による増築部
WD－3	4	木製引違い戸（ガラス、格子）	1815×1360	木製網戸、鋼板波板張り（38号）	WD－1 3	1	木製F I X窓（ガラス）	610×800	入居者による増築部
WD－4	2	木製引違い戸（ガラス、格子）	1815×730	木製縦格子、鋼板波板張り（38号）	A D－1	2	アルミ製玄関引戸（引違い、ガラス）	1815×1820	上部木製ガラスランマ400H
WD－5	2	木製引違い戸（ガラス、格子）	1255×730	木製縦格子	A D－2	1	アルミ製勝手口ドア（ガラス）	800×1820	上部木製ガラスランマ260H
WD－6	2	木製引違い戸（ガラス、格子）	955×730	木製縦格子	A W－1	1	アルミ製引違い窓（ガラス）	1815×1780	木製雨戸
WD－7	1	木製片引き戸（ガラス、格子）	805×1730		W S－1	2	引違い障子	1815×1730	下部ガラス320H
WD－8	2	木製片引き戸（ガラス、格子）	875×1730		F－1	2	引違い襖	1815×1730	上部天袋550H
WD－9	2	木製額入り開き戸（フラッシュ）	600×1785	ガラス400×600	F－2	2	片開き襖	855×1730	上部天袋550H
WD－1 0	1	木製片引き戸（フラッシュ）	810×1730		F－3	1	引違い襖	1815×1730	
					F－4	1	4枚引違い襖	2775×1730	
					W G－1	2	木製ガラリ	900×280	

内部仕上表	38号	室名	床	巾木	腰壁	壁	天井	廻縁	造作・家具	備考
		玄関	モルタル鏝押え板張り	モルタル塗り		ボード張りの上、左官（石綿含有）塗り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		トイレ	板張り		モルタル鏝押え	ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40		和式便器×1、手洗器×1
		和室6帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張りの上、左官（石綿含有）塗り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		和室4.5帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張りの上、左官（石綿含有）塗り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		和室3帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張りの上、左官（石綿含有）塗り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		台所	板張り		モルタル鏝押え	ボード張り	板張り	木製廻縁H40		流し、コンロ台
		浴室	モルタル鏝押え		モルタル鏝押え	ボード張り	ボード張り			浴槽
	39号	押入	板張り			ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40	中段	
		玄関	モルタル鏝押え板張り	木製巾木		ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		トイレ	タイル貼り		モルタル鏝押え	ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40		和式便器×1、手洗器×1
		和室6帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張り、一部合板張り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		和室4.5帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		和室3帖	畳敷き	畳寄せ		ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40		
		台所	合板張り		モルタル鏝押え	ボード張り	板張り	木製廻縁H40		流し
		浴室	モルタル鏝押え		モルタル鏝押え	ボード張り	ボード張り			
		押入	板張り			ボード張り	竿縁天井	木製廻縁H40	中段	
		浴室（入居者による増築部分）	モルタル鏝押え一部合板張り		モルタル鏝押え	プリント合板張り、一部断熱パネル張り	バスリブ張り			浴槽

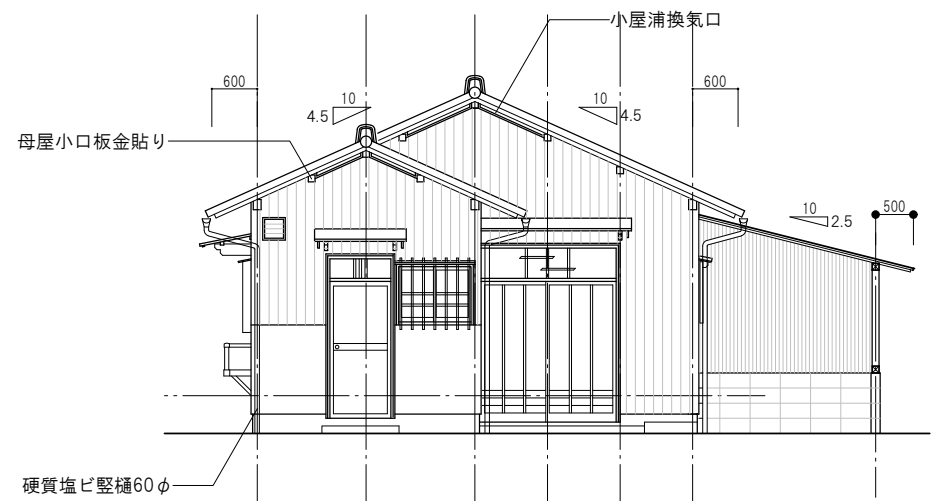
訂正		TAKASHI HARAI ARCHITECTS 株式会社原井隆建築設計事務所 一級建築士事務所 広島県知事登録 第23(1)第5582号 一級建築士 登録 第320892号 原井 隆	検 図	製 図	工事名称 市営南畑敷住宅 38・39号解体工事	図面名称 平面図・仕上表	図面番号
							A-05
							区分 A3判：1／100



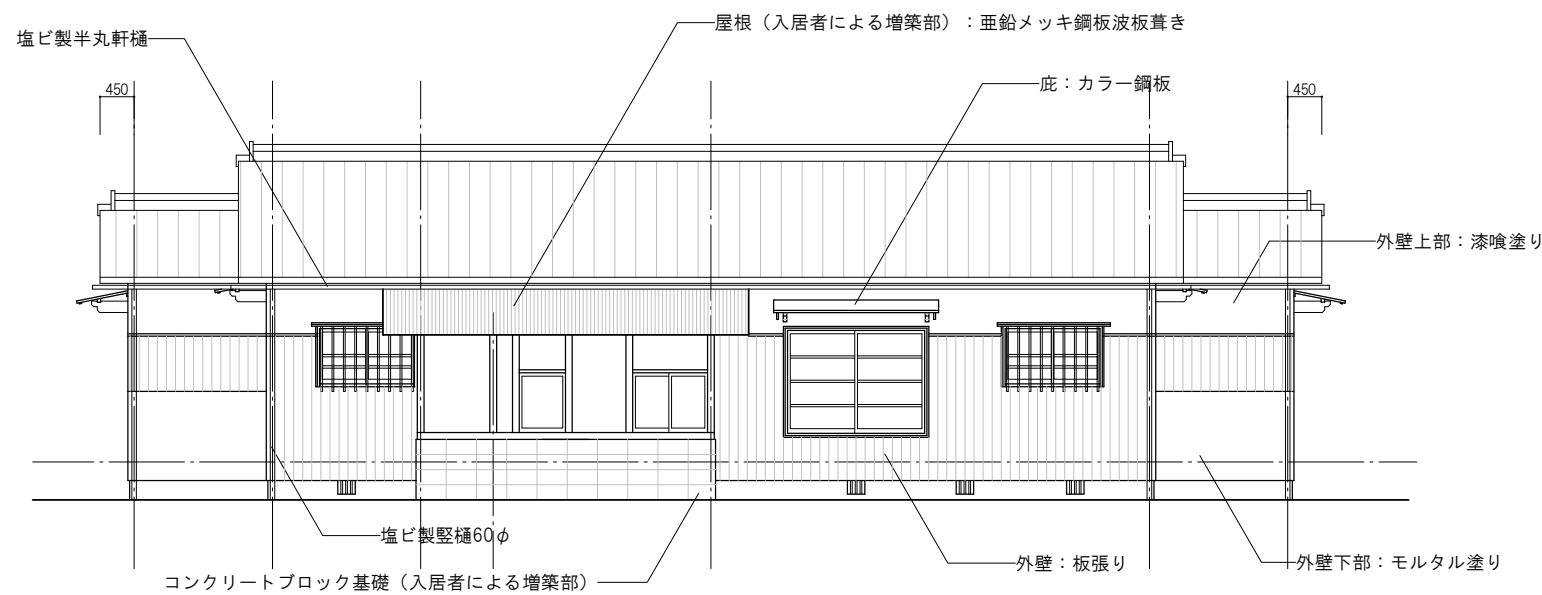
平面図 1/50



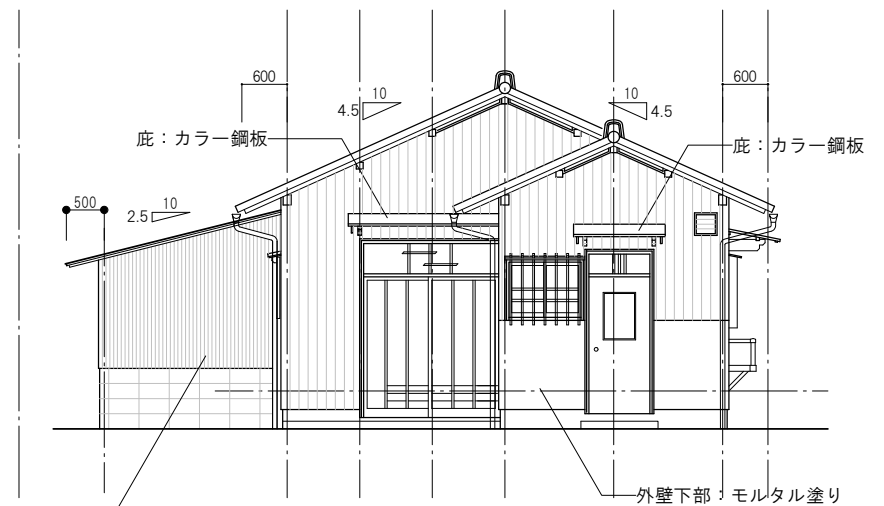
南側立面図 1/100



東側立面図 1/100

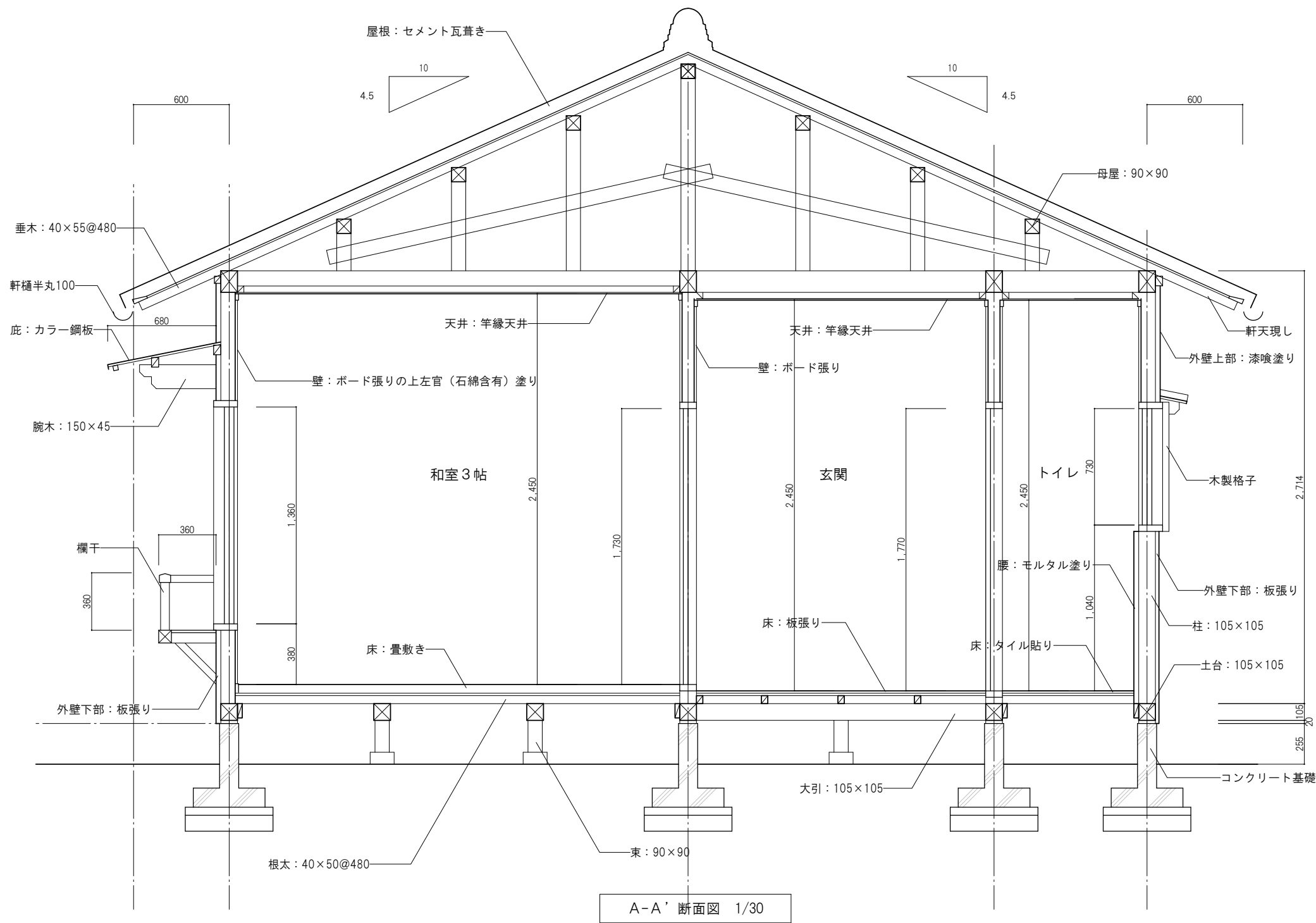


北側立面図 1/100

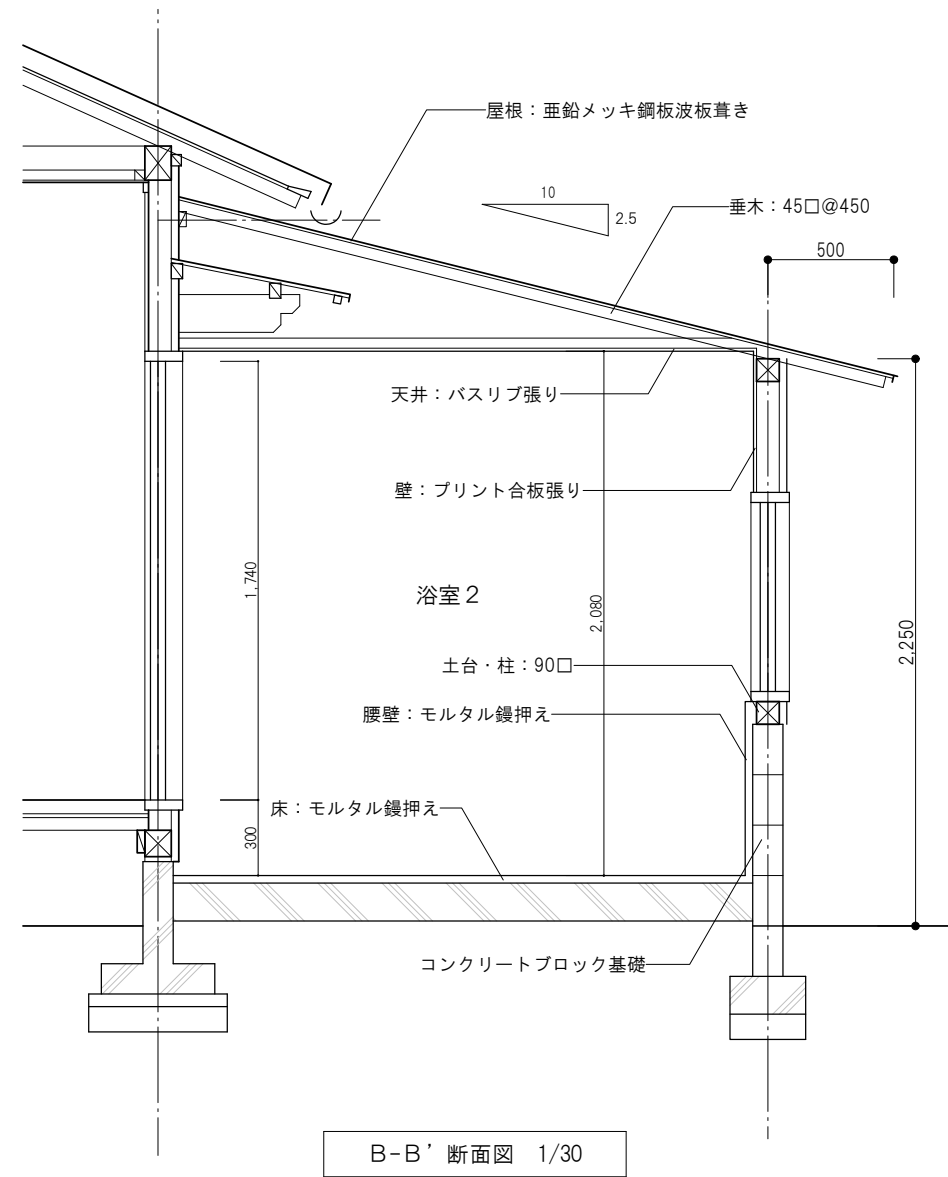


西側立面図 1/100

訂正				校 図	製 図	工事名称	図面名称	立面図	図面番号
						市営南畑敷住宅 38・39号解体工事			A-07
									区分
							縮尺	A3判：1/100	



A-A' 断面図 1/30

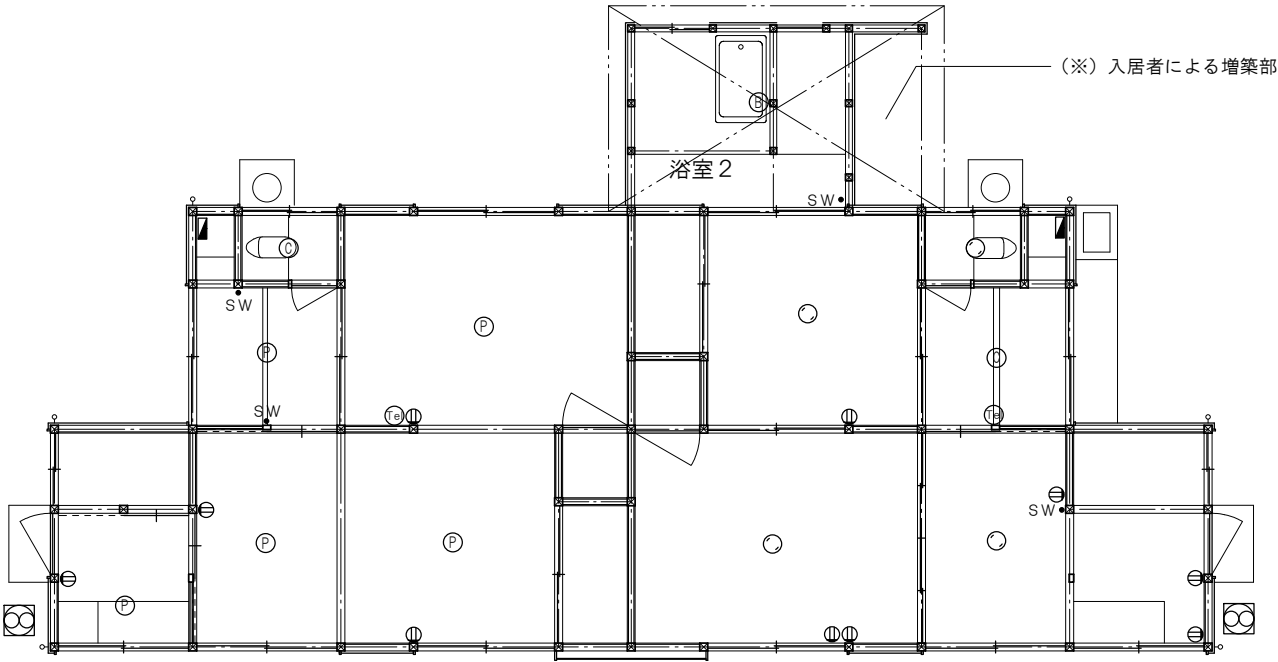


B-B' 断面図 1/30

(※) 入居者による増築部

訂正			校 図	製 図	工事名称 市営南畑敷住宅 38・39号解体工事	図面名称 断面図	図面番号 A-08
						縮尺 A3判: 1/30	区分

凡例	
⊖	コンセント
Ⓣ	電話
●SW	スイッチ
▴	分電盤
⊗	壁付換気扇
○	引掛けシーリング
Ⓟ	ペンダントライト
Ⓟ	ブラケットライト
Ⓒ	シーリングライト
Ⓟ	ベースライト



電気設備平面図 1/100

